様式第２号（第４条関係）

豊明市行政評価制度　「事務事業」評価票

● ４段階評価結果	A ： 上位目的である施策に貢献しているので継続する B ： 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要 C ： 縮小等、事務事業としての見直しが必要 D ： 事務事業の廃止が相当

１■事務事業の概要

１－１事務事業の名称	豊明秋まつり開催事業（主要事業）							
１－２担当	部	市民生活部	課又は施設	市民協働課	係	協働推進係	評価票作成者	課長補佐　条　和広

１－３総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」	③基本施策	観光	コード	３－３－４
			④単位施策（中）	イベントの推進	コード	３－３－４－２
	②項	産業振興	⑤単位施策（小）	まつりの充実	コード	３－３－４－２－１
１－４事務事業の目的の精査	対象と対象の数	全市民、市外住民	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	地域社会における連帯感の薄れや地域活動への参加者の偏りが深刻化する中、まつりをとおして、市民のあいだの親近感、連帯感を醸成し顔の見える地域コミュニティを形成すると同時に、まちに活力をもたらし、ふるさと意識を向上させる市民の交流や活動の場とする。		
１－５事務事業の内容	豊明まつりが市民に親しまれるまつりとなるよう、各方面と協調し運営を行う。 また、現在の行政主導のまつりから、市民や、市内で活動する団体が、市民まつりの企画及び実施を連携して取り組むことにより、互いにコミュニケーションを深めることができる市民主体へのまつりへと移管していけるよう見直しを行う。					

２■事務事業実施の状況

		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
２－１事務事業の実施における基本認識	平成23年度	市民の手作りのまつりとして、ボランティアの実行委員会による企画運営を基本に、行政は、実行委員会の参加、会場の確保など後方支援を行った。今年度は、「がんばろう日本！2011豊明まつり～夢をのせて～」のテーマを掲げ、各会場の催事調整を図るとともにイベントを盛り上げる取組みを実施した。		
	平成24年度	今年度は、市制40周年記念事業として、「ホントいいっっす！とよあけ～みんなの誇れるまちへ豊明のいいとこ再発見・創造～」のテーマを掲げ、２日間、開催した。市民の手作りのまつりとしてボランティアによる企画運営により、ペットボトルのトンネルやオープニングパレードを復活し、各会場のイベントを盛り上げるため、多数の団体の協力により実施した。		
	平成25年度	市民による手作りのまつりとして、ボランティアの実行委員会による企画運営を基本とし、ほとんど通年にわたって構想を練り検討を重ねることによって、11月4日（月・祝）に実施した。本年度は、中京競馬場をメイン会場とし「イイネ！豊明まつり中京競馬場なう！！」のテーマを掲げ、各事業の催事調整を図るとともにイベントを盛り上げる取組みを実施した。		
	平成26年度			
	平成27年度			

	事務事業成果指標名	前期目標値（単位）	後期目標値（単位）	指標の説明
２－２総合計画における単位施策成果指標	豊明秋まつり来場者数	2日間 120,000（人）	2日間 120,000（人）	豊明秋まつり来場者数の総合計

２－３成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	活動実績ａ（単位）	109,777（人）	110,291（人）	72,698（人）	70,724（人）	84,300（人）	84,759（人）	161,832（人）	30,000（人）		
	直接事業費ｂ（千円）	13,629	12,743	2,000	3,000	3,000	3,000	5,000	3,000		
	人件費ｃ（千円）	4,402	4,402	3,312	3,229	3,133	3,069	2,994	2,964		
	合計コストｄ（ｂ＋ｃ）（千円）	18,031	17,145	5,312	6,229	6,133	6,069	7,994	5,964		
	単位コストｄ／ａ（千円）	参加者一人当たり 0.164	参加者一人当たり 0.155	参加者一人当たり 0.073	参加者一人当たり 0.089	参加者一人当たり 0.073	参加者一人当たり 0.072	参加者一人当たり 0.049	参加者一人当たり 0.199	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 →

活動実績：豊明秋まつり来場者数の総合計
（※注）平成18～24年度までは、会場が分散していたため各会場で来場者数をカウントしていた。即ち、１人の観客が市役所、商工会館、農協の３会場を訪れた場合、来場者数は３人となる。
参考として、平成25年度の来場者をこのカウント方法で換算すると、30,000人×３×２日＝180,000人となる。
直接事業費：委託料、人件費：5,928千円×0.5人＝2,964千円

２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	指標対応実績（単位）	109,777	110,291	72,698	70,724	84,300	84,759	161,832	30,000		
	後期目標値に対する達成度（%）	91.5	91.9	121.2 （1日間目標6万人として算出）	117.8 （1日間目標6万人として算出）	140.5 （1日間目標6万人として算出）	141.3 （1日間目標6万人として算出）	134.9	50.0 （1日間目標6万人として算出）		

３■事務事業の自己評価結果

３－1　評価結果（アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度担当課評価	B	A	A	A	A	A	A	A		

３－２ 現状・課題	他団体等との協働の有無・協働主体	☑市民（個人・家庭）　☑NPO・市民団体　☑区・町内会　☑企業・農協・商工会　☑学校　☐国・県・市町　☑その他　（中京競馬場　）　☐なし	
	他団体等と協働し行った事業内容・各々が担った役割	市	実行委員会の支援、中京競馬場との会場使用に関する連携、各事業及び各関係団体の調整等、経理業務など。
		その他	豊明まつり実行委員会：まつりの企画、運営、各団体における事業の執行など。
		その他	中京競馬場：まつり会場の整備、清掃、警備など。
	事業実施により効果があったこと	・まつりを通した市民の交流によって、親近感、連帯感が深まった。 ・中京競馬場で実施できたことで、実行委員会は大きな達成感を経験し、今後におけるまつりのより自立的な企画運営に対する自信へとつながるものと考えられる。 ・従前とは比較にならないほどの広範な会場で実施したことにより、大きな反響を生み多数の参加者を集めたことで、本市のＰＲにつながった。	
	事業実施における課題	・上記のような効果を生み出す一方、会場における安全性をはじめとした課題が指摘された。 ・実行委員会が主体となり企画運営を担うことを目指しているが、行政への依存度が依然として高く、多くの支援を必要としている。 ・中京競馬場には会場として大きな協力をいただいているが、安全確保や円滑な実施に向けて更なる連携を依頼していく必要がある。	
	課題に対する改善策	・実行委員会で話し合った反省点を踏まえ、次年度実施に向けて改善策を検討していく。 ・実行委員会の自立については、相当に長い時間がかかることを認識し、僅かでもステップアップにつながるような働きかけをしていく。 ・中京競馬場との連携については、双方にとってメリットのある関係を構築できるような交渉を続けていく。	

4 ■新規事業

新規事業	事務事業の目的達成のためにできる新たな取組み（可能な限り協働の視点重視）	内容：市民活動室を地域社会活動に関する相談業務を含めた活動拠点として充実させる。 効果：貸館業務が中心となっている市民活動室の機能を充実させることにより、住民同志の交流が促進され、まちに連帯感と活力をもたらすことができる。	
	協働者となり得る主体・協働し担う役割	市	地域社会活動の拠点として支援を行う。
		NPO・市民団体	地域社会活動に関する中間支援の役割を担う。

5 ■事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
総合評価の結果	平成25年度	A	Ｈ２５年度は中京競馬場に場所を移して開催された。巨大な会場であるが満員であった。市民を中京競馬場に移送する手段を増強するなど、参加しやすい体制を確立されたい。

6 ■次年度事業への反映

事務事業の方向性内容	B　改善	まつりの規模や内容については、平成25年度の実績を基本とするが、会場への移送手段を改善するとともに、警備員の増設など安全面に関する体制を充実させて実施する。